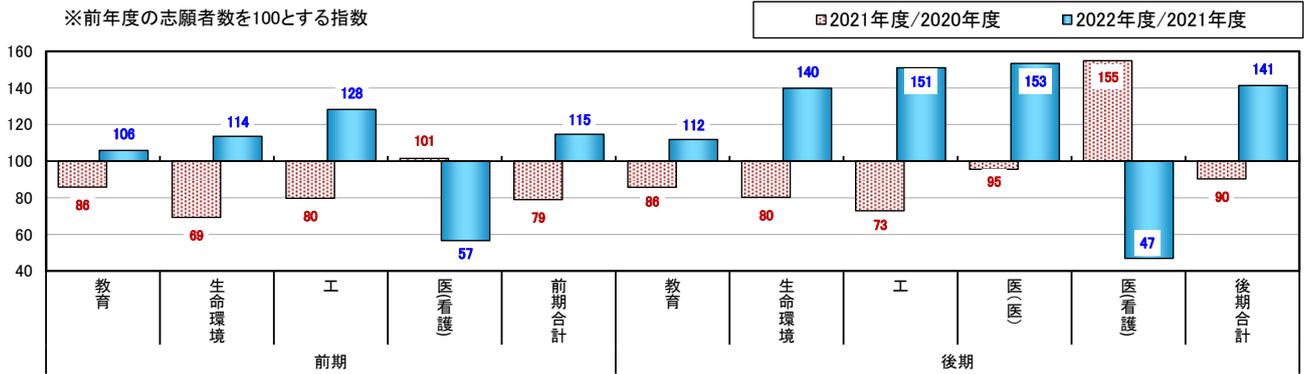


山梨大：前期は反動、後期はさらに併願先として狙われ、ともに大幅増加 前期：+133人 後期：+738人



主な入試変更点 募集人員：教育(学校教育／幼小発達教育)…<前>12人→8人、<後>4人→3人
生命環境(生命工)…<前>27人→32人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は2年連続大幅減少の反動で133人(115)の大幅増加、志願倍率は2.2→2.5倍へアップ。後期は2年連続減少の反動に加え、共通テストの平均点ダウンの影響による前期上位大学志願者の併願先として狙われたため、738人(141)の大幅増加で、志願倍率は10.4倍→14.8倍へアップ。

<前期日程>

- 教育(106)は、系統への人気の低下から、2年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。コース別では、6コース中3コースが増加で、特に(学校教育／言語教育)(178)は前年度減少率70%の激減の反動で激増。(学校教育／幼小発達教育)(115)は募集人員が4人(33%)減少にもかかわらず、2年連続大幅減少の反動で大幅増加、志願倍率は2.2倍→3.8倍へアップ。
- 生命環境(114)は、2年連続大幅減少の反動で増加だが、志願者数は2年連続200人台に留まった。学科・コース別では、(環境科学)(89)は唯一減少したが、その他の5学科・コースはいずれも増加。特に(地域食物科学)(181)は2年連続大幅減少の反動で激増。(生命工)(107)はやや増加だが、募集人員は5人(19%)増加で、志願倍率は2.3→2.0倍にダウン。
- 工(128)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、7学科のうち5学科が大幅増加。特に、(電気電子工)(207)は前年度半減以下だった反動で倍以上、(機械工)(191)は2年連続大幅減少の反動でほぼ倍増の2学科が目立った。一方で、(土木環境工)(78)は大幅減少で、2019年度以降前年度の反動による増減が継続、(コンピュータ理工)(87)は2年連続減少。
- 医(看護)(57)は、個別試験に教科試験がないことから共通テストの平均点ダウンの影響を強く受けて、減少率40%以上の大幅減少。

<後期日程>

- 教育(112)は、系統への人気低下にもかかわらず、2年連続減少の反動で増加。コース別では、6コース中4コースが増加。(学校教育／幼小発達教育)(184)は激増で、2016年度の改組以降前年度の反動による増減が継続。募集人員が1人(25%)減少もあって、志願倍率は10.8→26.3倍へ大幅アップ。(学校教育／科学教育)(167)、(学校教育／言語教育)(150)は大幅増加で、いずれも2年連続大幅減少の反動。一方で、(学校教育／生活社会教育)(55)は2年連続大幅減少、(学校教育／障害児教育)(78)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 生命環境(140)は、2年連続大幅減少の反動に加え、共通テストの平均点ダウンの影響による前期上位大学志願者の併願先として狙われたことから大幅増加。学科別では、全ての学科で増加し、特に(地域食物科学)(204)、(環境科学)(200)は倍増。(生命工)(138)は大幅増加で、前年度の反動による極端な増減が継続、(地域社会システム)(104)はやや増加で2年連続増加。
- 工(151)は、系統への堅調な人気と、共通テストの平均点ダウンの影響による前期上位大学志願者の併願先として狙われたことから大幅増加。学科別では、7学科のうち6学科が大幅増加。特に(機械工)(295)は約3倍増、(電気電子工)(200)も倍増。(メカトロニクス工)(179)は大幅増加で2年連続増加、(先端材料理工)(146)は3年連続大幅増加。一方で、(土木環境工)(86)は減少で2年連続減少。
- 医(医)(153)は、2年連続減少の反動で大幅増加。志願者数は2017年度以来5年ぶりに1,600人を上回った。志願倍率も11.7倍→18.0倍にアップ。2段階選抜が実施されたが、中期・後期日程における2段階選抜実施大学の中で不合格者数最多の713人となり、合格率は56.0%、合格者最低点は670点(74.4%)だった。
- 医(看護)(47)は、個別試験が面接のみであることから共通テストの平均点ダウンの影響を強く受けて、半減以下で、前年度の反動による極端な増減が継続。